

ISO/TC 8/SC 13(海洋技術分科委員会)担当分

議長: Dr. Dake CHEN(中国)、幹事国: 中国(SAC)

担当	規格番号	課題	課題(邦訳)	概要	制定等年月日	JIS化の状況
SC 13	ISO 3482:2022	Ships and marine technology — Technical Guidelines for the Active Source Exploration of Ocean Bottom Seismometers (OBS)	船舶及び海洋技術—海底地震計(OBS)の活発な資源探査のための技術指針	本規格案は、海底地震計(OBS)を使用した海洋地球物理学調査の技術設計、機器の技術指標、海洋検出手順、データ処理と解釈、および結果概要を取り纏めている。	2022.05	—
SC 13	ISO 5411	Submersibles - Terminology	潜水艇—用語	潜水艇の種類、性能、耐圧構造、システム及び装備、試験及び検査といった5つの側面を含む、潜水艇の標準化された用語を取り纏めたもの。【中国主導】 2023年7月18日期限のDIS投票は、特段の反対なく承認された。 日本は、国内の潜水艇に関する有識者に意見を照会したが、特段の意見は無かったため、賛成票を投じた。	近日制定見込み	—
SC 13	ISO/PRF 13205	Ships and marine technology — Seawater desalination — Terminology	海水淡水化—用語	海水淡水化の分野で使用される用語や定義を取り纏めたもの。【中国主導】 2023年6月4日を投票期限として行われたCD省略投票は、特段の反対なく承認された。 日本は、国内の海水淡水化に関する有識者に意見を照会したが、特段の意見は無かったため、賛成票を投じた。	DIS投票承認 2024.01.11	—
SC 13	ISO/AWI 20682	Autonomous Underwater Vehicles — Risk and Reliability	自律型無人潜水艇—リスクと信頼性	この規格は、製品エンジニアリングと自律型水中航行体、特に“エクストリーム・ミッション”での性能を結びつけるために開発された。エクストリーム・ミッションとは、相対的な用語であり、難易度の高い水中探検を意味する。このようなビークルは、数十年にわたり世界中の多くの企業によって製造されてきたが、海中での故障リスク、安全性、信頼性については、標準的な情報概要として一般的に議論されていない。【イラン主導】 NP投票の際には「棄権の」日本回答を実施。	NP投票承認 2023.04.12	—
SC 13	ISO 21173:2019	Submersibles - Hydrostatic pressure test - Pressure hull and buoyancy materials	潜水艇の耐圧構造の静水圧試験方法	潜水艇の耐圧構造の静水圧試験を取り纏めたもの。	2019.08	—
SC 13	ISO/AWI 21205	Requirements of blue carbon (BC) increment of tidal wetlands	潮汐湿地のブルーカーボン(BC)増加の要件	温室効果ガス(GHG)の標準的な評価を取り入れた時間スケールで、表層堆積物内の潮汐湿地における青色炭素ストックの変化を決定するために、表面標高表(SET)を使用する方法、適用される増分炭素計算、ネットワークの要件を取り纏めたもの。【米国主導】	NP投票承認 2023.06.26	—
SC 13	ISO/AWI 21319	Submersibles --Tools --Technical requirement	潜水艇—機器—技術的要件	この規格は、潜水艦用工具の分類、一般要求事項、設計要求事項及び一般特性を定義し、工具の一般的な試験方法及び検出方法を取り纏めたもの。 本規格は、水中工具の設計、製造、検査、受入後に適用される。	NP投票承認 2023.07.27	—
SC 13	ISO/AWI 21321	Manned submersibles-Manoeuvring test	有人潜水艇—操縦試験	この規格は、有人潜水艇の操縦試験に関する一般要求事項、試験項目及び試験方法について取り纏めたもの。プール、湖、海でのすべての有人潜水艇の操縦テストに適用される。プール、湖、海での他のタイプの潜水艇の操縦テストの参考になりえる。【中国主導】	NP投票承認 2023.07.27	—
SC 13	ISO 21851:2020	Standard Design Criteria of Complex Virtual Instruments for Ocean Observation	海洋観測のための複合バーチャルインストルメントの標準設計基準	海洋観測機器及び関連メタデータから収集したデータの加工及び表示のために用いられるCVIs(センサー類が観測したデータをコンピュータ上に表示させるためのソフト)に基づいた海洋観測ソフトウェアシステムの枠組みを取り纏めたもの。	2020.08	—
SC 13	ISO 22013:2021	Ships and marine technology -- Marine sensor performance	船舶及び海洋技術—海洋センサー性能	通常遭遇するフィールド条件の範囲において耐えうるために重要となる仕様を定めるための、海水と淡水のセンサ性能基準を取り纏めたもの。仕様としては、正確性(Accuracy)、精度(precision)、時間応答やドリフト、環境要因(温度、圧力(水深)、生物付着、等)が焦点となる。 2020年1月16日を回答期限としたDIS投票が賛成多数で承認され、2021年1月に正式なISO規格として制定された。	2021.01	—

SC 13	ISO 22252:2020	Manned submersibles —Breathing air supply and carbon dioxide absorption—Design requirements	有人潜水艇—呼吸用酸素の供給及び二酸化炭素の吸収—設計要件	本規格は、設計段階にある、有人潜水艇のman-ratedchamberのための、酸素供給及び二酸化炭素吸収に関する要件について取り纏めている。 本規格は、潜水艇のatmosphericman-ratedchamberに適用される。軽量ダイビング、重量ダイビング、飽和潜水、高圧室等は適用外とする。	2020.01	—
SC 13	ISO 22787:2023	Technical specification for marine biotic survey in area — General principles, definitions and requirements	海洋生物相の調査のための試験要件--一般事項、定義及び要件	技術的設計要件、調査要件、調査及び解析のための装備、サンプリング、サンプル保護及び解析を含む、海底における海洋生物相の調査に係る一般的な技術要件について取り纏めたもの(技術的な設計要件、調査要件、調査及び解析のための装備、サンプリング、サンプル保護及び解析等)。【中国主導】 2022年10月12日投票期限で終了したDIS投票は、1件の反対票が投じられたが、賛成多数で承認された(日本は賛成)。	2023.07	—
SC 13	ISO 22804:2023	General technical requirement of marine conductivity-temperature-depth (CTD) measuring instruments	海洋電気伝導度・温度・深度測定装置の一般技術的要件	海洋観測に用いられるCTD(電気伝導度・温度・深度)観測装置の技術要件について取り纏めたもの。【中国主導】 2023年2月14日を投票期限としたDIS投票は、特段の反対なく承認された(日本は賛成)。このため、FDIS投票を省略し、制定手続きに進んだ。	2023.08	—
SC 13	ISO 23040:2021	Specification for marine sediments in seabed area -- Sediment interstitial biota survey	海底地域における海成堆積物に関する仕様—海底堆積物の生物相の調査	海底堆積物の生物相の調査に係るサンプル収集、実験手順及びツール、サンプル解析及びデータ管理について取り纏めたもの。	2021.12	—
SC 13	ISO 23446 :2021	Product water of seawater reverse osmosis desalination	海水の逆浸透法により淡水化した生産水	海水の逆浸透法により淡水化した生産水の技術要件を取り纏めたもの。	2021.09	—
SC 13	ISO 23730:2022	Ships and marine technology -- Marine Environment impact assessment (MEIA) -- General technical requirement on marine environment impact assessment	海洋環境影響評価(MEIA)—海洋環境影響評価に関する一般要件【日本主導】	海洋環境影響評価に関する技術的手法・手順を一般的に記述するもの。	2022.04	—
SC 13	ISO 23731:2021	Ship and marine technology -- Marine Environment impact assessment -- Long term in situ image based surveys in deep sea environments	海洋環境影響評価(MEIA)—深海環境における長期間の画像に基づく調査方法【日本主導】	海底の画像を長期(最長1年)にわたり、自動的・間欠的に撮影し、回収する方法について取り纏めたもの。	2021.07	—
SC 13	ISO 23732:2021	Ship and marine technology -- Marine Environment impact assessment -- General protocol for observation of meiofaunal community	海洋環境影響評価(MEIA)—メイオファーナコミュニティの観察のための一般的なプロトコル【日本主導】	海底のメオファウナ(微生物)を、メタゲノム及び画像解析手法により、定性的及び定量的に分析する方法について取り纏めたもの。	2021.07	—
SC 13	ISO 23734:2021	Ship and marine technology -- Marine environment impact assessment -- Onboard bioassay to monitor seawater quality using delayed fluorescence of microalga	海洋環境影響評価(MEIA)—微細藻類の蛍光を使用した海水の質を観察するための生物検定法【日本主導】	海底鉱物資源を海表面に揚げるときに周囲の海水に漏れ出る場合の生物影響評価を、海面付近の代表的な藻類により測定する方法について取り纏めたもの。	2021.07	—
SC 13	ISO/PRF 23745	Ships and marine technology-- General specification for shipborne meteorological instruments	船舶及び海洋技術--船上気象測器の一般的な仕様	船舶の気象測器に関する用語と定義、一般的な技術仕様、データ形式、環境適応性、試験環境、および方法を取り纏めている。【中国主導】 2020年3月14日を回答期限としたNP投票は承認された。 日本は、本件への意見提出をWMO(世界気象機関)に委ねることが適切と判断し、同投票に「棄権」回答を提出した。	DIS投票承認 2023.08.10	—

SC 13	ISO/AWI 24037	Ships and marine technology-- General specification for shipborne meteorological instruments	船舶及び海洋技術--船上気象測器の 一般的な仕様	船舶の気象測器に関する用語と定義、一般的な技術仕様、データ形式、環境適応性、試験環境、および方法を取り纏めている。【中国主導】 2020年3月14日を回答期限としたNP投票は承認された。 日本は、本件への意見提出をWMO(世界気象機関)に委ねることが適切と判断し、同投票に「棄権」回答を提出した。 2023年3月14日を投票期限として実施された、CD段階を省略するための投票が承認された。 2023年8月9日を投票期限としたDIS投票では日本は「棄権」回答済。	DIS投票承認 2023.08.10	-
-------	---------------	--	-----------------------------	--	-----------------------	---